

グリーンバンクサポータークラブ会報

第79号

2020年10月16日発行 会員数59



富士市”ディサービスアルク富士”
寺原 健司さん



富士市”渋脇花壇”
斎藤 勝江さん



三島市“ふれあい花クラブ”
左 柳井 秀之さん
右 伊藤 君子さん

“花は素晴らしい人を繋げてくれる”

見学旅行や研修にでるとたび魅力的な方が多く、皆さんどんな想いで花を育て活動しているのだろうと思っていました。そしてコロナ禍の状況になり運営委員会に本取材企画を提案したところ、先輩方はすぐにGOサインを出してくれました。うれしかったです。78号、79号と6件の取材をさせて頂きました。皆さん笑顔で、何より準備をして迎えてくれます。

そして地域の施設の人々を、花を通じてハッピーな気持ちにしている。積み重ねてきた一つ一つの事をお聞き出来たのは本当に良い経験です。

皆さん“花が好き”は共通。そして“あなたにとって花とは”と全員にお聞きしていますが、私にとって花とは「素晴らしい人たちを繋げてくれる大切なもの」です。

コロナ禍、会報が“皆さんを繋げる花”になりますように。次号は西部地区を訪問予定です。

サポータークラブ副会長 中村道代



取材・編集 中村道代 取材協力 梅川友子 影山雅代 斎藤玉子 千葉祥子

1 “ディサービスアルク富士” 寺原健司さん



ビジネスマン時代ベトナムにいて介護施設に入られた方がお花によって回復していったという事を知り、退職後は花を活用して人を元気にしたいなあと考えていました。2016年からディサービスアルク富士の送迎ドライバーとして勤務していますが週3回計9時間の内3時間、施設の花壇管理を自分から申し出てやっています。また、富士市天間東町の会長として公園の花壇ボランティアグループ、地元小学校の花木の管理もサポート、それから個人ボランティアとして植栽の管理で困っている方を手伝っています。

活動をきちんと行うために、園芸療法士、庭園管理士、生涯学習指導員など5年間で1年毎に2つずつ資格を取り（すごい！by 記者）、植栽は弟子入りして教えてもらいました。

〇うれしい時、やりがいは？

アルクでは、こぼれ種から花が咲いたり、利用者さんにきれいだねと言われたりします。小学校は子供たちに花の育て方を教え、学区のコミュニティ活動に若い人たちに参加して欲しいので親御さんや先生方とも一緒にやることを大事にしています。町内の公園は、フラワーグループがありとても良くやったださるので感謝しつつ、木の伐採とか石を運ぶなど力仕事を主にサポート。個人の方に植栽をやるときも小さい枝切など出来るところは自分でやってもらう。次にまた花木が伸びたところと一緒に見ていろいろな共感を得ながら進めることがやりがいにも繋がっています。

〇あなたにとって花とは

楽しみ。生きがい。人との繋がりを作ってくれるもの。



教頭先生と地域コーディネーターさん、感謝し褒めていました。



土づくりに苦労したアルクの花壇、来春はノースポールが一面に咲きます。



フラワーグループの皆さん。花に詳しく、頼りがいがあるそうです。



寺原さん宅に咲いたプルメリア

地域や職場に文字通り根ざした活動をして、関係する皆さんに感謝され愛されているって素敵ですね。案内して頂いたところでは、何処にもお仲間が待ち受けてくれていました。また、土作りから始まって、一つ一つの花を大事に慈しんでいるのにも感心しました。そして、現状で満足せず勉強を続け、技術や資格を習得していく前向きな姿に驚きました。終始魅力的な笑顔だったのも心に残りました。

斎藤玉子

2 富士市吉永地区渋脇町 “渋脇花壇” 斉藤勝江さん

私は、花の活動を始めて33年になります。

渋脇花壇は昭和63年改良造成（以前から花の会が管理）、平成19～20年の2年間花の会と交流後、町内6組が引き継ぎました。平成22年吉永地区の町内から助成金をいただき「花なかま」として花壇を継続し現在8花壇が活動中です。一つの組が家族ぐるみで活動するのは珍しく、土づくりや植栽、年4回の作業には10人以上の参加があります。風通しの良いお付き合いができており、花壇作業以外の用水路の清掃や花壇まわりの庭木の剪定にも力を貸してくれます。河川敷のゲートボール場が使われなくなり草がぼうぼうになってしまいそこも花壇にしようと計画中です。



個人として近くの富士市立高校の地域活性交流部の花壇活動の植え替え時のデザインのお手伝いもしているんですよ。地べたに座ってやっている子に注意したり（笑）でも、彼らの中で先輩が後輩に教えてだんだん育って来ました。



色映えがしてきれいな渋脇花壇



家族ぐるみで花壇の手入れ



斉藤さんの整理された作業小屋



斉藤さん宅の和風のお庭

○活動の課題は 男女ともに仕事に就いている人が多く日常の手入れを出来る人が少ないなど人手不足

○やりがいは 散歩コースに選んで下さる方々がいること。赤ちゃんの散歩や犬の散歩を楽しむ方々からの温かい声掛け。子供と写真を撮りにきてくれるお母さんがいることなど。

○あなたにとって花とは 花は健康のもと！会えば嬉しく、世話をするには身体を動かさざるを得ない作業が伴います。失敗と発見があり、落ち込みは次なるエネルギー。花見学をしたり花好きとのおしゃべりを楽しんだりと出かける勇気や元気を与えてくれる存在です。

斉藤さんが管理している花壇は、手入れ良く酷暑を乗り切り、大変元気で綺麗な花壇でした。また自宅付近の渋脇花壇では、年4回家族ぐるみで町内の美化活動をするそうです。欠席者の事は言わず、参加して頂いた方に感謝し風通しの良いお付き合いが出来るのは理想の町内と感じました。これらは、現在の美化活動を次世代へと繋ぐ斉藤さんの心意気を感じる事が出来ます。

影山雅代

3 “ふれあい花クラブ” 柳井秀之さん 伊藤君子さん



（柳井）2007 年沼津市の福祉施設・保育園の園芸福祉を目的に発足し2014 年まで活動。その後2015 年からフィールドを現在の三島市に移し活動を再開しました。現在、老人福祉施設1 か所、障がい者施設花壇7 か所で園芸福祉活動を実施しています。月～金曜日の8 時～12 時まで毎日4 時間、活動を始めるきっかけにもなった小林さん（写真中央）と一緒に職員として作業をしています。小林さんは施設の利用者さんから現在は施設の職員として採用されてずっと私のパートナーです。彼が担当する見晴学園の

「勝手に小林ガーデン」（笑）きれいにやってくれます。昔は障がい者施設というと人里離れた山奥にあったのですが、この見晴学園「そおれ」は住宅地の中にあり、作業をしていると町の方が声をかけてくれます。通りにきれいな花壇があるということは近隣の方との関係も円滑にしてくれる。植物でつながっている人間関係というのは良いです。

（伊藤）ふれあい花クラブで活動して3 年になります。施設のうちの一つの花壇を一人で担当していますのでやってくれる方が増えたらいいなあと思います。利用者さんが気にして見てくれるし心がなごみますよね。



勝手に小林ガーデン、芝生が見事に手入れされポーチュラカが満開です。



小林さんと柳井さんはパートナー



広い芝生があるというのは本当に素晴らしいと実感しました。

あなたにとって花とは

柳井 花は偉大な父母。花の活動によって人の能力が伸びる事も知って欲しいです

伊藤 心の癒し 小林 花が好きです。

柳井さんがこういう形で人の能力が上って雇用され自活できるまでになるという事をもっと知って欲しいとおっしゃっていたのが強く記憶に残りました。また、住宅地に障がい者施設があることを花が和らげてくれるということも。言葉でいうのは簡単ですが10年以上にわたり園芸福祉をやってきた方の言葉には凄みがあります。取材中、ずっと同行してくれた小林さんはいろんな方ににこやかに声をかけ人気者なのだなと思いました。花の力、人の力が結集してなんだかもうすごい！という取材でした。感謝。

中村道代